

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>



誌上句会「0番線」

榊 陽子・奈良一艘 選

2021

9



題「一」 榊 陽子 選	4
奈良一艘 選	6
無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	8
会員雑詠集「無人駅」	13
■例月句会結果■	
おかげようき川柳社 8月句会	23
川柳吟行会「ぼ」	30
十和田たてがみ川柳会7月句会報	34
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	12
Infomation	37～

0番線

題「一」 榊陽子 選

【佳作】

- スタートラインへお地藏さまに会いに行く
滋賀県 大谷のり子
- 一度だけ笑った事のあるだるま
愛知県 中川喜代子
- 生い立ちを一から話す伝書鳩
千葉県 臈
- 桃一つ連れて返ってきた詩集
青森県 葉 閑女
- 裏声のままでは一に戻れない
佐賀県 真島久美子
- 悪党も一緒アゲハ蝶も一緒
千葉県 尾崎良仁
- 主題から遠くまで来たユニコーン
長野県 西沢葉火
- 一杵のウツボカズラに賭けてみる
愛媛県 松木慎吾
- ハム一枚程の愛だとしてもね
愛媛県 吉原美佐
- でもねえと乗り換えたのは一輪車
福井県 みつ木も花
- 一瞬だったムシクの叫びだった
千葉県 尾崎良仁
- 一宿一飯どの合同を使おうか
岡山県 小林茂子
- 地上一階激しく愛し合っている
青森県 須藤しんのすけ
- 一存では鳥になれない夜でした
静岡県 米山明日歌
- バッターは一塁 死角はマンホール
青森県 笹田隆志
- 一波二波三波四波五波追隨
広島県 笹重耕三

- 打楽器になりたい1を産みました
徳島県 徳長 伶
- バンドエイドはとても第一バイオリン
愛媛県 吉松澄子
- 暴走列車を止めるペコちゃんの舌
長野県 西沢葉火
- 一円をゴールに運ぶミズスマシ
愛知県 安藤なみ

【秀逸】

- なんでもない一が笑いすぎである
奈良県 ひとり 静
- 遮断機と次の電車をまつている
秋田県 佐藤春子
- 埋めたならガリガリ君の棒たてよ
青森県 守田啓子

【特選】

- 切腹の横一文字飛行機雲
青森県 笹田かなえ

特選、〈切腹の〉切り裂いた跡と〈飛行機雲〉が飛んでできる細長い雲の線状がどちらも〈横一文字〉だということに込められた思いは何か。切腹という忌まわしい行為とうらはらに空に浮かぶ一筋の飛行機雲

選評

の漠然とした平和な日常が現れるか、まるで空が切腹したかのようにぱっくり割れた空から血や内臓が流れ出てくるような不穏さを感じるか、この句の〈切れ〉がどこにあるかで受け取り方が違ってくる。

榊陽子

秀1、アイスは変われど変わらぬ哀悼の棒に郷愁。秀2、〈遮断機と〉待つという安心感と怖さ。秀3、主観の押し付けへの自戒。(選なんてものは主観や先入観の押し付けなのでサラッと読み流してね。)

0 番線

題「一」 奈良一艘 選

【佳作】

- 1+1をずっと信じていたわたし
 一番を光源氏に決めさせる
 ハム一枚程の愛だとしてもね
 いち抜けたあんじょうやっておくれやす
 夕焼けの渡り切ったか一輪車
 一聞いてそれで十分です わたし
 連名か一人にするか相討ちか
 生と死が一回限り許される
 その一に帰る故郷の風の中
 一棹のウツボカズラに賭けてみる
 桃一つ連れて返ってきた詩集
 あるがまま老いて一人の胡瓜もみ
 一度目がきつと綺麗なさようなら
 はじまりは終りからだと思し召せ
 一丁の豆腐わたしの物語り
 バーチャルだもの 引っぱたくのが一番よ
- 神奈川県 芝岡かんえもん
 青森県 滋野さち
 愛媛県 吉原美佐
 愛媛県 青野 舞
 滋賀県 中島順子
 青森県 稲見則彦
 愛知県 青砥和子
 大阪府 寺川弘一
 佐賀県 真島美智子
 愛媛県 松木慎吾
 青森県 葉 閑女
 石川県 中川洋子
 大阪府 峯島 妙
 青森県 高木まあこ
 京都府 岩根彰子
 青森県 吉田吹喜

- 青色のたまされやすい一部分
 裏声のままでは一に戻れない
 出かけましょ空が一つであるうちは
 瞑想の一分間は人だった
- 秋田県 斎藤泰子
 佐賀県 真島久美子
 愛媛県 山内美恵子
 愛知県 安藤なみ

【秀逸】

- 主題から遠くまで来たユニコーン
 ひとつ目のまぐれ当たりからズズズ
 一存では鳥になれない夜でした
- 長野県 西沢葉火
 大阪府 宮井いずみ
 静岡県 米山明日歌
- 京都府 岩根彰子

【特選】

【特選】ひい、ふう、みいと数珠
 を手繰り念仏を唱える。故人を偲
 び、家内安全、無病息災を祈りな
 がらも魂の不滅と肉体の儂さの摂
 理を達観している様は哀しく切な
 い。着地の「水は水」が効いた。【秀

選 評

1】自分の想いだけでは鳥になれ
 ないという発想には妙に共感。【秀
 2】「ズズズ」のオノマトペがそ
 の後の展開を見事に拡げてくれて
 愉しい。【秀3】ユニコーン（一
 角獣）の発見が見事に決まった。

奈良一艘

全体に「一」を詠み込んだ句が多
 い中、特選句や秀句の読み込まな
 い句に目が惹かれたのは致し方な
 い所なのかもしれない。

【0番線「一」：投句者73名】齊尾くにこ・三好光明・芝岡かんえもん・伊藤正美・中川洋子・しばたかずみ・稲見則彦・石倉多美子・山内美恵子・斎藤泰子・寺川弘一・山田こいし・米山明日歌・尾崎良仁・高木まあこ・吉田吹喜・つ木もも花・木戸利枝・松木慎吾・木村美映・丸山健三・宮井いずみ・旅男・岩根彰子・小野善江・須藤しんのすけ・もりともみち・岡村水無月・山内房子・田久保亜蘭・徳長怜・まみどり・河野潤々・笹田隆志・小林茂子・星出冬馬・

木口雅裕・折戸洋・安藤なみ・石橋芳山・青野舞・麗・佐藤春子・笹重耕三・西沢葉火・一帆・土居新山・田中なお・村上てる・吉原美佐・吉松澄子・峯島妙・村上あつこ・中島順子・真島美智子・中川喜代子・真島久美子・み鳴海賢治・夏草ふぶき・岸井ふさ糸・葉閑女・大谷のり子・笹田かなえ・渡邊こあき・滋野さち・守田啓子・藤田めぐみ・ひとり静・熊谷冬鼓・郷田みや・青砥和子・まきこ・笠嶋恵美子

カンテラ

むせし

2020東京オリピックが終わって日本にはたくさん
のメダルと新型コロナウイルス感染者が残された。

会期前も会期中もウイルス感染症が世界的に拡大し、
台風が来て地震も起きたオリピックなんて聞いたこと
がない。

今、私の頭の中では「医療崩壊」という言葉が点滅し
ている。

それでは、カンテラに明かりを灯しましょう。

A群

まだ翔べる筈だこんなに青い空
コスモス群生末はサロメかカルメンか 葉 閑女
見えない荷物担いで謎かけが続く 三浦蒼鬼
オブラートに包んでみても罵言雑言 土田雅子
はじけないおはじきだつていいじゃない 夏草ふぶき
からっぽの煙草の箱の軽さかな 折戸 洋
夕凧になってしまった両ちぶさ きさらぎ彼句吾
じゃまものスギナに朝露のきらきら 熊谷冬鼓
スカスカにされて寢床に辿り着く 芝岡かんえもん

言の葉の木漏れ日しかと掬いとる

吉見恵子

賞味期限の切れた脳みそ発酵中

村上あつこ

夜行寝台コトンと嵌るポツチ穴

旅 男

ほほえみは別料金になりますか

宮井いずみ

夏の夜はあさき夢みし指狐

柳本恵子

樹にのぼるのをやめ歩く事にした

田久保亜蘭

田久保亜蘭さん、あれあれ、どうしたの？亜蘭さんは
プロの庭師だから「樹にのぼるのをやめ」たら商売にな
らないじゃないですか。あれ？もしかしたら、庭師を卒
業した？

B群

通過したアイツコイツの草いきれ 岩根彰子
メールでは体温感知できません 上村夢香
一日がモコモ拾えず流れてく 辻井洋子
無味無臭のおとこが突っ立っている 鳴海賢治

C群

ジュゴンβとして目を覚ます 小野五郎
わたくしのベサメムーチョよ紙おむつ 奈良一艘
のとはとの間でずつと揺れている ひとり静
疑問符と白いカラスを手に入れる 吉田吹喜
雄花しか咲かない白線の内側 守田啓子

安藤なみさん、「もみあげ」って「揉上げ」で、人間
の顔の、耳の前に細く生え下がった毛のことですよ。
武士が、男として一段と強く見えるように伸ばして揉み
上げたことから名前が付いたらしい。死んだら「もみあ
げ」だけが残ったということは、なみさんはある男性の
男らしさだけを記憶しているということですね。どんな
人だろう。

小野五郎さんは「ジュゴン」だったのですか。「ジュゴン」を広辞苑で引くと『じゅーごん【儒艮】(マレー語から)カイギュウ目ジュゴン科の哺乳類。全長約3メートル。尾びれは横に扁平。後肢は退化。インド洋・南西太平洋の沿岸の浅海に生息し、海草を食べる。立泳ぎしながら子を抱いて授乳する姿から、古来これを「人魚」とした。奄美・沖縄で犀魚(ザンヌイユ)・ザン。天然記念物。』と出てきます。で、「ジュゴンβ」ですが、たぶんジュゴンの変異型でしょうね。にしても、目を覚ましたら身長が3mになっていたなんて普通の住宅では大変でしょうね(笑)

奈良一艘さん、「ベサメムーチョ」って懐かしいですね。1940年にメキシコの16歳の少女が誕生日前に作った曲で、後にビートルズもカバーしています。「ベサメムーチョ(Bésame mucho)」はスペイン語で「たくさんキス

を入手しましたね。広辞苑を引くと『しろーがらす【白鳥】羽色の白い鳥。すなわち、あり得ないことのとたとえ。』と出てきますが、ウイキペディアを見たら全身真っ白のカラスの写真が載っていて驚きました。それは、ハシボソガラスのアルビノ。で、『神話・伝説上では通常、生物学的に知られているカラスとは色違い・特徴違いのカラスが存在する。それらは、吉祥と霊格の高い順に八咫鳥、赤鳥、青鳥、蒼鳥と白鳥が同等とされている。』と書かれています。吹喜さん、その「白いカラス」は大事にした方がいいですよ。

守田啓子さん、「雄花」は『お・ばな【雄花】雄しべがあった雌しべのない花。ゆうか。むだばな。』(広辞苑第七版)で、「雄花」しかないということは子孫が残せないってことですよね。そのままだと「白線の内側」は花(植物)が絶えてしまう。で、「白線」の外側には雌花があるのかな?何でもそうだけど、内側と外側って交流しないよね。

して」という意味。『私にキスをして、たくさんキスをして/今夜が最後かもしれないから私にキスをして、たくさんキスをして/あなたを失うのが怖い、この後あなたを失うのが怖い/あなたを抱きしめたい…(以下省略)』(ウイキペディア)と歌詞が続きます。一艘さんが深く愛している方が「紙おむつ」をしているのかも知れませんね。優しい男だ。

ひとり静さん、「のとはとの間」というのがしばらく分かりませんでした。あいうえおの「の」と「は」の「間」だと気づいたのはしばらくしてからです。な行の最後の「の」、改行があつて、は行の「は」とそこまで考えたら、昔先輩に言われた言葉を突然思い出しました。「に」「は」と見たら「の」に変えよ、という呪文のような言葉です。川柳に出てくる「に」と「は」は説明の「に」「は」だから「の」に変えなさいということ。静さんは、その「の」と「は」の間で揺れているのかも…。違うかな。

吉田吹喜さん、「白いカラス」だなんて不思議なもの

須藤しのすけさん、この句、怖いですね。「0120」を調べたら『0120が始まる番号は、NTTコミュニケーションズが提供している「フリーダイヤル」というサービスで、一般的に電話をかける際には発信者が通話料を負担しますが、フリーダイヤルでは電話の発信者ではなく、着信者に通話料が発生します。このようなサービスを「着信課金番号サービス」と言います。』と出ていました。で、もしかしたら「0120」で始まる電話からかかってきた電話を受けると、こっちで料金を払わなきゃいけないのかな?なんて思ったりして焦りました(汗汗)句は、その「着信課金番号サービス」と「しずかにひとがしぬ」がつながっている。ということは、どういうこと?いくら考えても分からない…。分からないけど気になってしょうがない。感じて書いたものは感じてもらえないってことかな…ううう。

(了)

深艘心理

……ケトルが鳴りやまず 木村美映

(会員雑詠集無人駅7月号より)

前段の記号……は多分モールズ信号のSOS。音で表せば(トトトツーツーツトト)。Sは船舶を中心に用いられていた遭難信号である。かの有名なタイタニック号遭難の際に打電したことも広く知られている。SOSの意味はどなたでもご存知だろうが、Save Our Ship (私たちの船を助けてください) や Save Our Souls (私たちの魂を救ってください) の頭文字を並べたというのが一般的に言われているらしい。

で、掲句であるが、SOSを発しているケトルが鳴りやまないのだという。ケトルなのだから(トトトツーツーツトト)ではなく(ビビビポーポービビ)なのかも知れないが……。あははケトルは勿論作者自身。作者の心の内にある何かの思

いが沸騰し行き場のなくなったその強い思いはまるでケトルの蓋を持ち上げるように音を発しながら助けを求めているのだろう。句想としてはかなりシンプルな発想なのだが、問題は記号の表記だ。モールズ信号と理解できない読者には、何のこっちゃ??で終わってしまう危険性も充分孕んでいる中、敢えてこの表記にした冒険というか実験は果たしてどう評価されるのだろうか?

現代川柳の旗手として名高い川合大祐や柳本々々など記号を使った川柳をしばしば書いている作家も結構いる。短歌ではそんなに珍しいことではないのだそうだが、まだ川柳では珍しい前衛の部類に入るらしい。しかし、深艘心理的にはGOのサインを是非とも出して差しあげたいと思うのだ。冒険や実験は大いにしてみるべきです。友よ。

おかしやうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅8月月間賞

足首がホルムズ海峡にはさまった

小野五郎

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

心地よい痛み真夏のおでん鍋
見えない荷物担いで謎かけが続く
泣いて笑って怒って海が深くなる
ありふれた日々を繕う仮の笑み
つま先立ちの景色に副作用がある

先月号のお気に入り

宮井いずみ【みやいずみ・大阪府大阪市】

親切の裏にべつたりカレールウ
いい加減にしてとらつきよの皮を剥く
ほほえみは別料金になります
勘違いしたまま線香つけたまま
パラパラ漫画せみの声から始まつて

先月号のお気に入り

曇天に突き出す一日の稼ぎ 石橋芳山
働いている人の句は力があるなあ。遊び暮らして
みません。

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

瓶にさす椿一輪母匂う
ねぶただお盆だ彼岸だ雪が降る
まだ生る電車くる音風の音
稲妻に棘をぬかれて米寿くる
たつぷりと津軽の詩情旅に出る

先月号のお気に入り

剪定の枝に未練を残す老い 渡邊こあき
趣味は盆栽です。剪定する時の気持がよくわかります。
剪定の枝のいたみが身にしみる。

守田啓子【もりたけいこ・青森県青森市】

お友達登録をして梅雨明ける
愚痴は聞くものインゲンは削るもの
グループに招待されてから綿毛
熱中症警戒アラートな海馬
雄花しか咲かない白線の内側

先月号のお気に入り

堪忍袋の緒を繕って月あかり 吉見恵子
大人ですね！

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

目標も干からびてゆく真夏日に
日本史のあちこち汗と涙漏れ
作句する執行猶予前日に
腹立てて呑む酒辛いやつちやつた
子規の見ぬ物を見てやる聞いてやる

先月号のお気に入り

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

賞味期限の切れた脳みそ発酵中
さつきの記憶がスルリと抜けて振り出しに
気の向くままにどこでもドアを開ける 夜
よーいドン地獄極楽紙一重
弾切れで号砲鳴らぬ無観客

先月号のお気に入り

腐乱する一步手前の絶頂期 宮井いずみ
絶頂期過ぎればすぐに腐乱するのね・納めました。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

夏の夜はあさき夢みし指狐
逢いたくて平方根を解きつづけ
相済みませんとゲリラ雨とおりぬけ
午前四時どくだみの白光る朝
仕事ですからと冷たいアイスの棒

先月号のお気に入り

やってみる絹ごし豆腐的口調 辻井洋子
私も絹ごし豆腐的口調を目指します！

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

締切が延びて芽生える愛燦燦
コスモス群生末はサロメかカルメンか
ホルンから牧歌チェロから炭坑節
睡蓮も招いて午後の合評会
ヒアルロン酸効いて野性を取り戻す

先月号のお気に入り

雨上がり素直な自分とりもどす 柳本恵子
確かに。雨上がりは心も洗われた気分になります。

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

いつか私もスーチャーさんの髪飾り
逢えぬまま咲いた今年の山ぼうし
天ぶらにアカシア届く昭和が届く
自粛なら日課を増やすいんげんズッキーニ
夏大根急いでおろす夏時間

先月号の
お気に入り

混浴のできる槽になりました
こんな日が来るとは予想さえしていませんでした。めで
たし。
渡邊こあき

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

月の裏待ち合わせなら今のうち
湿っぽく停まる UFO 予約済み
盃はきゅつと飲み干す約束よ
いい話ゴマンと転がるダイニング
疑問符と白いカラスを手に入れる

先月号の
お気に入り

日本語は瘦せるわたくしは太る
村井規子
すごく深刻な話なのに、なぜか可笑しい面白い。

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

言の葉の木漏れ日しかと掬いとる
どの花も淘汰せぬよう手旗持つ
ナストマトキュウリの花の清潔さ
山椒の実の片手分ほど世を愁い
黄昏のちちはは似なり影法師

先月号の
お気に入り

米山明日歌【よねやますか・静岡県長泉町】

乱舞して夢の出口をさがしてる
そこだけは入りこめない人の闇
生煮えの答えばかりの浮くシチュー
永久か仮初めなのか迷う雨
乱丁のわたしを撫でてくれる人

先月号の
お気に入り

黄昏のピギンとしては許せる範囲
奈良一艘
ちあきなおみバージョン。唄えます。許せないところまで、
いかがですか。

安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

もみあげを残して灰になった人
国境はアクリル板が護ります
艶やかに茄子洗われて雉の声
滑らかな泡立ち黒ビールの点描
蚊取り線香とレモングラスの譲り合い

先月号の
お気に入り

咲いて散る。その工程のややくしさを
人間ですね。何とか簡素化しませんか。
斎藤泰子

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

浦島は飽きた中央分離帯
通過したアイツコイツの草いきれ
伊勢佐木町もりもり食べて今がある
父を反芻するココヨの帳面
もう爪跡に五本指ソックス

先月号の
お気に入り

輪郭がぼやけてとてもイイおんな
吉田吹喜
お互いと言いたいが…

上村夢香【うへむらめか・山口県岩国市】

六歳の瞳わたしを攻めまくる
くり返しコロナに勝つと言われても
メールでは体温感知できません
消しゴムで忘れさせてはくれないね
いつの間にスーダラ節が癖になる

先月号の
お気に入り

コロッケに醤油我が家の伝統だ
土田雅子
信念を貫く姿勢に敬意を表します!!

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

ぐるりつと積乱雲に囲まれる
手と足が出てくる夜の掛時計
親指が迷宮入りになつて
周回軌道から抜け出た砂時計
ジュゴンβとして目を覚ます

先月号の
お気に入り

折戸洋

〔おりとひろし・神奈川県川崎市〕

甥っ子の打球はやくて婆抜きす
からっぽの煙草の箱の軽さかな
秘湯てふ宿へ来りてバスクリン
頂上に茶店のさばる野菊かな
眼鏡屋の娘安価な眼鏡して

客引きと行く裏道の天の川
ネオン街で見えざる銀漢を想う。

須藤しのすけ

熊谷冬鼓

〔くまがいとこう・青森県青森市〕

じゃまもののスギナに朝露のきらきら
初めてを始める種をいただいた
種を撒く芽が出る花咲くそれだけで
野いばらが威嚇してくる庄ざれてる
あおむしがいる カマキリがいる 楽しい

あらあんたほんと雨雲だったのね
あつけらかんとした会話調に作者との関係性が見えて来
しい

芝岡かんえもん

ささくらぎ彼句吾

〔ささくらぎあくあ・青森県弘前市〕

しがらみをまだ泡立てる赤い月
棄てきれぬささ波とゆく月の下
土用波も立ちはじめたよエピローグ
夕風になつてしまつた両ちぶさ
せせらぎに戻る コーヒー飲み干して

家庭用りんごに添つた食し方
うさぎカットは畏れ多い食し方? 「添つた食し方」なんて、
融通の利かなさを皮肉つた表現でしょうか?。

熊谷冬鼓

笹田隆志

〔ささだたかし・青森県青森市〕

オオタニの真似をしてする賭博
五輪ロードを開脚歩行する羆
緑のオバさん中島みゆきのフアイト
満月を盗んできて売りに出す
オスプレイを眠らせている小川原湖

芝岡かんえもん

〔しばおかかんえもん・神奈川県横浜市〕

スカスカにされて寝床に辿り着く
さあ皆んな一緒に濁りましょうよ
優しいと透明になつてしまふよ
歳月が笑いころげる女なの
負け犬の入道雲は厚くなり

打算的男のジャズは甘く弾く
打算で甘く弾けるなんて困つた親爺です。こんな親爺を野に
放つてはいけません。ますますこちらがモテなくなります。

奈良一艘

須藤しのすけ

〔すとうしのすけ・青森県弘前市〕

雨上がり路上ライブのビートルズ
Y字路に黒木香の濡れた声
命日の前日メロン特売日
切り札を拾うきのうと同じ場所
0120しずかにひとがしぬ

いきいきと穴を掘つてはヒト埋める まきこ
悪い事してるんだらうなあ…でも、生き生きしてるんだ
からいつかwww

城後朱美

〔じょうごあけみ・福岡県八女市〕

美しすぎないか不吉なまでの夕茜
幸せが逃げないように息を吐く
茄子の花母の視野には入らない
空の青母は一人で起きられず
おむつはまだまだ気丈は母である

来年の話をしよつ雨の花と
コロナワクチン接種の1年後、来年はどうなつてるのだ
ろつ。

柳本恵子

瀧尻善英

〔たきじりよしひで・青森県八戸市〕

キミと逢えばなんでも許してしまう
本題はコンソメスープ飲んでから
四面楚歌びえんを越えてばおんどボン
まだ翔べる筈だこんなに青い空
負け戦でも良いんですミルフィーユ

あちこちに種を撒いては踏まれてる
数撃ちや当たるとすね。諦めずに、そのうちきつと願
いは叶うことでしょう。

渡邊こあき

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

野仏の立ち小便を見ちまった
樹にのぼるのをやめ歩く事にした
それだったら着せ替え人魚の嘘
交尾する銀河鉄道一人旅
下敷きの下から母の生臭み

先月号のお気に入り

旅男【たびお・青森県五所川原市】

人生が輝くなんてえしやぼん玉
昭和見る副流煙の演技見る
夜行寝台ゴトンと嵌るボツチ穴
デッサンで止まったタトゥーはペコちゃん
ノーマスクこの快感はノーパンツ

先月号のお気に入り
一日は男で過ごす五連休
安藤なみ
面白い。では私も、たまには女になって待たせるか。

田中薫【たなかかおる・青森県弘前市】

梅干しの種にハートを付けました
ナムロックわたしのキーポイントかな
生きがいを根っこで海に浮かべてる
脳のキヤパぎゅー詰めでひよ子が泣いてる
山に居る一粒の点 わかるかな

先月号のお気に入り

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

お日様に包み込まれて丸くなる
ホドホドの体力つけてスマホ買う
この先が見える椅子なら辞退する
一日がモモも拾えず流れてく
ふくろはぎ正しく拗ねていると言う

先月号のお気に入り
肩の荷をおろしてからの長い雨季
葉 閑女
乾季よりいいよな……

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

夕焼けの甘えた声に起こされる
猫バンバンしてから登る裏階段
オブラートに包んでみても罵詈雑言
たんぽぽの綿毛に乗せる絶縁状
真昼野でお洗濯など贅沢な

先月号のお気に入り
あらあんたほんと雨雲だったのね
芝岡かんえもん
はい。どうも、すみません。

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

はじけないおはじきだつていいじゃない
線香の先からスツと出る魚群
みそ汁の具に隠してる関節痛
プーさんに微かに残る獣臭
消音で飛んでみたいとスズメバチ

先月号のお気に入り
教えます優しい野菜の殺し方
土田雅子
それやってみたかったの、教えてくださいませ。

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

ほらキミもアイツもジェネリック医薬品
わたくしのベサメムーチョな紙おむつ
懇ろにカレーうどんを抱きましよう
それは…それは…僕の銀河のささくれ
ところが捲れない人差し指のカサカサ

先月号のお気に入り
爺の自問時々刻々の私事の時事
旅男
あつはつは。オモロー！

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

微塵切りまだきりますか通り雨
身嗜みいかが ほうれん草いかが
無味無臭のおとこが突つ立っている
そうなることは知っていたハエ二匹
時間的余裕ないので帰ります

先月号のお気に入り
にんじんごぼうだいこんはんにゃはらみった
むさし
理屈っぽくなくていいじゃないですか。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

ブランコは優柔不断また揺れる
上の空だったかこんなもの描いて
噴水のとっぺんピエロではないか
競い合うようにみんなが不機嫌で
のとはとの間でずつと揺れている

先月号の
お気に入り

何回も心に刺さる薔薇である
芝岡かんえもん
そんな経験には、なかなか出会えなくて。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

壊れるか溶けるか猛暑日の時計
アポなしで機嫌をとりに来られても
甘い顔見せたつもりはないのだが
無駄話でした昼下がりのポスト
風向きも鈍感力も未知数で

先月号の
お気に入り

チューリップかわいだけの花じゃない
渡邊こあき
そうなんです、だまされてはいけません。

まきこ【まきこ・青森県青森市】

野ざらしの首が静かに笑い出す
半夏生小さな賭けに勝ちました
幸せのおすそ分けです玉手箱
魔女狩りの引換券はこちらです
おせつかいは止めなと月がわめきだす

先月号の
お気に入り

言い分はさばの味噌煮にマヨネーズ 宮井いずみ
どっただ言いい分だんだへ。考えるだけで楽しいです。

むさし【むさし・青森県蓬田村】

頑張らないで生きていこうと決めたのに
鼻の頭に止まったハエをどうするか
階段を上る途中の長い夢
青空よ影のしつけができません
月光に咲く花のままチリヌルヲ

いい事ばかり

8月7日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者(12名)

渡邊こあき・熊谷冬鼓・葉閑女・きさらぎ彼句吾・小野五郎・
須藤しんのすけ・奈良一艘・むさし・木村美映・笹田隆志・守
田啓子・夏草ふぶき

▼投句者(22名)

安藤なみ・宮井いずみ・柳本恵子・岩根彰子・吉田吹喜・米山
明日歌・土田雅子・旅男・城後朱美・斎藤泰子・村上あつこ・
芝岡かんえもん・石橋芳山・吉松澄子・郷田みや・鳴海賢治・
村井規子・上村夢香・まみどり・まきこ・折戸洋・坂本清乃

おかじょうき川柳社 8月例会

席題『寒い』

青森県青森市 渡邊こあき選

【佳作】

働いたら負けふところは寒いけど 木村美映
 冷めきつた体でつなぎ止める夜 須藤しんのすけ
 七度目の遺言状を写す猫 須藤しんのすけ
 少しびつに月は凍るよ傾くよ 奈良一艘
 生返事ゆるしませんと冷めた声 葉 閑女
 夕立の中からヌツと忌野清志郎 奈良一艘
 右肩にマッターホルンを載せられる む さ し

70年前の雪が降ってるおもちゃ箱 む さ し

ブラックホール出す手品つてありますか 小野五郎

車窓から湖畔 泣いてもいいですか 守田啓子

【秀逸】

他人事のように傷口見つめてる 熊谷冬鼓

型通りあつさり葬は畳まれた きさらぎ彼句吾

かき氷5個食べました前のめり 守田啓子

【特選】

訳もなく読み飛ばされた冬が来た 守田啓子

↑自分をスルーされると心が寒くなる。

席題『寒い』

青森県青森市 熊谷冬鼓選

【佳作】

バーコード状の総理が吐いた親父ギャグ 奈良一艘
 車窓から湖畔 泣いてもいいですか 守田啓子
 この恋も毎日捲り薄くなる きさらぎ彼句吾
 生返事ゆるしませんと冷めた声 葉 閑女
 山背吹く急に覚える胸騒ぎ 渡邊こあき
 冷めきつた体でつなぎ止める夜 須藤しんのすけ
 訳もなく読み飛ばされた冬が来た 守田啓子

ウイルスと影踏みつづく残暑かな 小野五郎

右肩にマッターホルンを載せられる む さ し

籍入れた途端ひつきりなしに雪 きさらぎ彼句吾

【秀逸】

少しびつに月は凍るよ傾くよ 奈良一艘

型通りあつさり葬は畳まれた きさらぎ彼句吾

70年前の雪が降ってるおもちゃ箱 む さ し

【特選】

夕立の中からヌツと忌野清志郎 奈良一艘

↑これぞ川柳!!思わずブルツ、でも愉快。

宿題『波』

青森県弘前市 きさらぎ彼句吾選

【佳作】

躰糸しゆるしゆるふわり波の華
 さざ波を見ている朝のこちら側
 波の上だろうかさよならの着地
 そのあとは波止場の猫になるつもり
 折り返し地点で聞いた波の音
 引き潮になって視線がはいません
 鍋焼きうどん8杯食べて阿波踊り
 茄子漬けの樽から池波正太郎
 さざ波があるのだニンゲンなのだ
 ノツテケノツテケ何にでもイイネ押す
 ふんばってさあふんばって心太
 千本のボトルメールでする偽証
 さざ波に躓いたのねシルエット
 生干ししてきたか潮騒聞こえたか
 北斎の波から月へ飛び降りる

岩根彰子
 宮井いずみ
 まみどり
 米山明日歌
 郷田みや
 渡邊こあき
 笹田隆志
 むさし
 奈良一艘
 旅 男
 旅 男
 須藤しんのすけ
 郷田みや
 須藤しんのすけ
 むさし

ひく波の音の消えない薬指

10トンのうねりが毎日やって来る
人並みの中のオーラについてゆく
引き際の無惨な波形 どうしよう

扇風機の代わりに寒波買っちゃった

【五客】

やさぐれて来たわ私の心電図
 寒波くる冷めた男の指の先
 白波を蹴立てて海が追って来る
 聞き分けのない波ばかり寄ってくる
 いかがわしい波に時々さらわれる

【人位】

ベタベタと貼り付く指の電波塔

【地位】

波紋なら冷凍室でうたた寝中

【天位】

廃車寸前のオトコの指に波の音

『まだまだやれると自尊心が言うのですネ。』

米山明日歌
 小野五郎
 斎藤泰子
 守田啓子
 笹田隆志
 土田雅子
 葉 閑女
 土田雅子
 安藤なみ
 まきこ
 奈良一艘

宿題『走る』

青森県青森市 葉 閑女選

【佳作】

八月を走る なんにも持たないで
 下駄履きで走ってわたしサザエさん
 パン食い競争あなたのパンにくらいつく
 遺伝子に走り書きした泣き黒子
 自分らしく走ってコケて五十歳
 放電を終えた電池と伴走中
 息切れを悟られぬようひた走る
 逆送も近道もある黄泉の道
 さよならが乱反射する滑走路
 走るのをやめてその後の彼岸花
 肩書のみだけ走り続けたわ
 脱走を企て母は白亜紀へ
 似合ってきたね小走りの時間
 アンカーになるはずだった糸トンボ
 妬心ならありますなまこ走り出す

守田啓子
 安藤なみ
 芝岡かんえもん
 柳本恵子
 村井規子
 土田雅子
 城後朱美
 安藤なみ
 郷田みや
 坂本清乃
 まみどり
 守田啓子
 岩根彰子
 熊谷冬鼓
 まきこ

バトン繋いだか根回し終わったか

小走りのうちは董であった野火
 頸動脈をスルスル走るドライバー
 走らねば風が味方をしてくれぬ
 煙突もたまには走りたくないか

【五客】

完走したら十分メダリスト
 バトン渡したし海月にもどろうか
 夕焼けは脱走しろと言いました
 走って走ってハンカチの四隅
 わたくしはわたくしという走り方

【人位】

迷走が終わって月の裏にいる

【地位】

伴走はあなたでしたねオリオン座

【天位】

預かったタスキを誰に託そうか

『その人選がまちがうと大変なことに...』

土田雅子
 きさらぎ彼句吾
 笹田隆志
 まみどり
 石橋芳山
 村井規子
 きさらぎ彼句吾
 むさし
 岩根彰子
 斎藤泰子
 むさし
 郷田みや
 熊谷冬鼓

宿題『自由詠』

青森県青森市 夏草ふぶき選

【佳作】

不自由な油絵を拭く紙ヤスリ
 金タワシで磨いてる八月の底
 誕生は七月絶望は九月
 三つ編みはメロン味ですかき氷
 賢くはなれない素直にもなれない
 あいつにちよいと塩をかければいなくなる
 前略 ひとりで星に来て・・・ごめん
 ヒール履きストリーだけが先に行く
 惰性からポツと生まれたのも母性
 いちたすいちがいちになつてから喜劇
 猫に鈴ニユートラルにはなりました
 色は匂ほ屁と散りぬるを老稚園
 前例のないところまで打ち明ける
 松花堂弁当箸を使う猿
 熱帯夜 バナナになればよいのです

安藤 なみ
 守田 啓子
 笹田 隆志
 郷田 みや
 まみどり
 芝岡 かんえもん
 守田 啓子
 柳本 恵子
 まみどり
 土田 雅子
 郷田 みや
 旅 男
 米山 明日歌
 安藤 なみ
 奈良 一艘

悩殺か刺殺か絞り切れず 朝
 カニカマじゃないぞピンビンの男だ
 しゅわしゅわくつと消えられたなら此の世
 焼き肉が食べたいSMの女王
 低いけど踏台にしていいいからな
 【五客】
 曇天曇天 音が景色を変えてゆく
 マスクしてカッコの中に閉じこもる
 空っぽな左脳のため息は淫ら
 望まれた型は窮屈でしたもの
 老い先の短い二槽式洗濯機
 【人位】
 満月にウインクしている活断層
 【地位】
 桃の実の真ん中そこは夜だった
 【天位】
 言うことはいい事ばかり鳩時計
 ね。 ♪何があってもおりこうさんの顔でいる

葉 閑女
 石橋 芳山
 きさらぎ彼句吾
 木村 美映
 渡邊 こあき
 吉田 吹喜
 む さ し
 須藤 しのすけ
 斎藤 泰子
 小野 五郎
 む さ し
 米山 明日歌
 宮井 いずみ

第26回

杉野十佐一賞 作品募集

課題/締切

「変」(2句詠) / 2021.9.30 ✕

選者

徳永政二 (滋賀県/「びわこ番傘川柳会」所属)
 なかはられいこ (岐阜県/「ねじまき句会」所属)
 樋口由紀子 (兵庫県/「晴」編集発行人)
 広瀬ちえみ (宮城県/「垂人」編集発行人)
 吉松澄子 (愛媛県/第25回杉野十佐一賞大賞受賞者)
 むさし (青森県/おかじょうき川柳社 代表)

投句料

1,000円 (発表誌をもって投句料領収したものとさせていただきます/締切日まで投句料が入金された場合のみ作品を受け付けます)

応募方法

※郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/tosaichi/contest/>へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。送信後、締め切り日までに下記口座に投句料1,000円をお振り込みください。

【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、件名に「第26回杉野十佐一賞」として、下記送信先までメール送信してください。

<送信先アドレス(守田啓子宛): moriko@okajoki.com>

送信後、下記口座に投句料1,000円をお振込みください。

振込先: 郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

発表

月刊おかじょうき 2022年1月号の誌上において発表。
 サイト掲載: 2022年1月中旬

賞

上位入賞者に青森県特産品を贈呈。

諸権利について

基本的に著作権は作者に帰属しますが、出版権、雑誌掲載権など、作品を自由に利用できる権利は、おかじょうき川柳社に帰属します。

その他注意事項

※作品は応募者の自作で未発表のものに限ります。※応募された原稿に関するお問い合わせや、審査結果の問い合わせには応じられません。※個人情報については、許可なく他の目的で使用することはありません。

川柳吟行会「ぼ」

課題『星』

角田古錐さんが亡くなって5年になる。7月31日が命日だ。古錐さんは「ぼ」の前身「川柳読む会」を立ち上げた方だ。合評会の前に今年も数名でお墓参りをしてきた。

今回は投句者20名で60句、合評会参加者7名。その合評会では、選外だったが、「腹出して寝ているねこの星月夜」はどこで切って読んだらいいのか。「腹出して寝ているねこ(猫)の／星月夜」。また「ベツレヘムの星」「きら星のごとく」「天満星^{あまみほし}」など話題になった。合評会のあと冬鼓さんから選の結果が一斉送信される。ワクワクしながらワードファイルを開ける。「ぼ」の醍醐味のひとつである。(啓子)

【10点】特×2・佳×6

火星からちやうど帰ってきたところ 城後朱美

【文音】民間宇宙旅行に飛べる時代。ご近所同士、あらどちらまで。ちよつと火星まで…。なんて楽しいですね。【冬鼓】近い将来こんな会話を交わしていそう。星から死後をイメージした句が多かったが、この句は明るく爽快。【洋】シュールでとぼけた雰囲気が良いです。【彰子】今、コンビニからみたいに軽く火星からなんてよく言いますね感。【しんのすけ】SF的な天然っぽい話し言葉に癒される。【こあき】火星へ行ってきましたか。火星は密にならなくていいですね。【柳本恵子】「どちらへ」「ちよつと火星まで」こんな会話がきこえてきました。【啓子】この大胆なおとぼけ感。好きです。

【6点】特×2・佳×2

待つてるよつて☆置いていかれても 守田啓子

【こあき】☆希望を置いていかれたなら素直に追っていかなくちゃ。まん中にある☆のマークが印象的。【旅男】星のマークできましたか。借金を置いて行かれたんですね。でなけりゃ嘆く筈がない。失礼。【文音】先にあの世に行っている彼。目印は星のバッチをつけてくるんだよ。ロマンチック。【ふぶき】☆を置いていった人の気持ちと置かれた人の気持ちの温度差があるんですね。

【4点】特×1・佳×2

すいきんちかもく何とかなるもんだ 守田啓子

【州花】何とかなるもんだ、と開き直ることが出来たのは齡五十を過ぎてからかも。【いずみ】冥王星が準惑星になるなど大事件を思えば日常のことなんか何とかなると笑い飛ばせると言いたいのだろうか。話言葉をひらかなで書いて「何」に焦点を当てているのも面白い。【冬鼓】大きな宇宙をドドンと持ってきて、小さな自分との対比と肯定感がいい。

【6点】特×1・佳×4

隕石が刺さった喉で飯を食う 小野五郎

【洋】意味は解らないのだが、闇雲な迫力が良いと思います。【吉見恵子】スピード感のある句。強烈なパンチに見舞われたようですね。涙を堪えて必死に生きてる感が伝わって来ました。【いずみ】有り得なさに笑ってしまいが、どういうことなんだろうと興味をそえられる。【柳本恵子】大きなものが喉に刺さっていても日常が繰り返えされる。勇気ももらいました。【冬鼓】隕石とは大げさだが何かやらかした？食卓の緊張感が伝わる。

ゆくゆくは詠み人知らず流れ星 折戸 洋

【啓子】「死」を受け容れていつまでも悲しまないでほしいと思う。【夢香】そうして、いつかはみんな消えていく。【規子】人の命は限りある流れ星。柳人の死後は句が生き残る。

天の川氾濫ユリの香がみちる 宮井いずみ

【しんのすけ】ユリ全般の花言葉は「純粋」「無垢」「威厳」。織姫彦星を分ける大河に、優しくも残酷な御伽話が冴える。【洋】静謐で詩的なイメージに魅かれました。【州花】地球の川はこうはいかないのが難。

満天の星ひとつひとつに名をつけて 柳本恵子

【ふぶき】日常って先の見えないことの繰り返しでできてるなあと思いました。【しんのすけ】壮大な時間か、単なる暇か…クスツとさせる。【夢香】思わず吸い込まれそうになります。

【3点】特×1・佳×1

星になるまで好きな物だけ食べる 城後朱美

【隆志】どうせいつかは星になるのです。残り少ない人生、好きなモノだけ食べて悔いを残さないのがいいのです。【文音】あこがれの生き方。

一番星がカタカタ走るランドセル 滋野さち

【吉見恵子】間違はなく人類にとつての一番星です。「カタカタ走る」に明るく元気なリアル感が伝わって来ました。【夢香】子供たちの懸命な姿に癒されます。のびのびと成長してほしいと願うばかりです。

梅雨空よトマトのへたが星代り 福田文音

【彰子】星をロマンチックに詠い挙げぬ所に惹かれた。心象風景がよく描かれている。星代わりがやや弱いかも

に妥協しないで、自覚して生きることが大事。取り敢えずの形として北斗七星を見上げている。

思い出と一緒にねむる星の砂 柳本恵子

【紫の園】何とも幸せなほっこりする句です。

羊水に浮いてる土星のブーメラン 小野五郎

【柳本恵子】羊水の中に宇宙があるなんて幻想的です。

星見上げキラリはじける愛し人 紫の園

【朱美】会いたいと言えば、僕もだよと答えてくれそうな星。会えなくなつた今、思い出を抱きしめることしかできない。

生かされてきたのだ一番星きらり 熊谷冬鼓

【規子】人は無事に産まれてくる事が最初の奇跡。その後の人生において感謝を忘れない作者を尊敬するばかり。

遅刻して芥子の実星になれなんだ 岩根彰子

【いずみ】遅刻したのは芥子の実。何やら阿片のにおいもするようで意味ありげである。

…。【紫の園】梅雨が長く星は見えず、トマトのへたが星とは日常の一齣をよく見えています。

彼の世でも使える星を積み立てる 旅男

【五郎】この「星」は何んのことなのか。引っかかる作り方。ユーモアがあふれている。【紫の園】積み立てて使える星は何なのでしょう？彼の世で幸せになれますように。

【3点】佳×3

あの星にいた頃はよく笑ったね 守田啓子

【州花】あの星ってどの星などとは言えない。今もよく笑うけど。【朱美】うんうん、よく笑った、泣いた、怒った！【隆志】仲良く、いつも笑い合っていたいものです。

【2点】特×1

星つもる女系三代目のつむぎ 吉田州花

【吉見恵子】女系代々の健やかな願いのこもった袖が感じられました。大事なつむぎですね。

しあわせは自分が決める七つ星 吉見恵子

【さち】なにが幸せか決めるのは自分しかない。周り

【2点】佳×2

星空と猫の間にある絆

夏草ふぶき

【五郎】星空と猫の取り合わせが面白い。立ち止まらせる句。【旅男】猫と星の共通点(私的ですが)人の気に添っているようで薄情です。

私を見守る星がまた増えた 渡邊こあき

【彰子】身近な方が星になられた。また増えたが悲しさから立ち上がる筋肉。【五郎】悲しみを前向きにとらえ直した。

【1点】佳×1

一番星冷し中華にのつてくる

小野五郎

宿題は母にとつての一等星

村井規子

流れ星！途絶えた家系またひとつ

旅男

一日に一個黒星もらつてる

渡邊こあき

こつこつと金を貯めれば星流れ

折戸洋

抽斗の星の欠片は不燃ごみ

熊谷冬鼓

炭酸のキラキラ見つめてるキラキラ

須藤しんのすけ

死ぬまでに何等星になれるかな

村井規子

隕石が言うたわごとを聞いてやる

夏草ふぶき

十和田たてがみ川柳会七月句会

【参加者】漆館ミノリ・木村奈生美・久保あざみ・

斉藤蛙井・佐藤まさあき・瀧尻善英・中村英三・福

田芳記・村上昌子・高田幸柳

【投句者】磯島雅男・城後朱美

■席題 『ローン』

福田 芳記 選

【平抜き】

完納のローン安堵の床に就く
 木村奈生美
 村上 昌子
 澁ちんの妻と真逆で直ぐ借りる
 高田 幸柳
 高田 幸柳
 家クルマローン返済首が凝る
 高田 幸柳
 高田 幸柳
 ローン買い後悔先に立たぬ罨
 佐藤まさあき
 聞金に手を出したのが運の尽き
 高田 幸柳
 忍び寄るローン地獄のエンマ様
 高田 幸柳
 ローン済む頃には家にガタが来る
 瀧尻 善英
 買えるなら幸せつかむローン掛け
 中村 英三
 超高値ローンへ睨む家計の眼
 木村奈生美
 ふところ未払いローン黙秘中
 木村奈生美

■席題 『ローン』

瀧尻 善英 選

【平抜き】

過払い金戻る戻るのコマーシャル
 福田 芳記
 現役のときだから効く各ローン
 福田 芳記
 超高値ローンへ睨む家計の眼
 木村奈生美
 ローン買い後悔先に立たぬ罨
 高田 幸柳
 次世代にローンのつけを託そかな
 久保あざみ
 子等買った家へ当てたい宝くじ
 村上 昌子
 買えるなら幸せつかむローン掛け
 中村 英三
 家クルマローン返済首が凝る
 高田 幸柳
 ローンする程信用があるかしら
 漆館ミノリ

聞金に手を出したのが運の尽き
 佐藤まさあき
 新開地住宅ローンが並んでる
 佐藤まさあき

【秀逸】

完納のローン安堵の床に就く
 木村奈生美
 澁ちんの妻と真逆で直ぐ借りる
 村上 昌子

【特選】

忍び寄るローン地獄のエンマ様
 高田 幸柳

■宿題 『老後』

村上 昌子 選

【平抜き】

老後にはのんびり出来る筈だった
 佐藤まさあき
 ボランティア趣味と輝き出す老後
 木村奈生美
 平和なり老後きのうと変化なし
 漆館ミノリ
 年重ねお一人様のエネルギー
 佐藤まさあき
 習い事増やして忙しい老後
 城後 朱美
 ゆつくりとシルバークレイの道を行く
 久保あざみ
 老後とは思いつと夢あるといい
 漆館ミノリ
 趣味がありお金があつて楽隠居
 瀧尻 善英

【秀逸】

マイホームローン残して泥離婚
 瀧尻 善英

念願のローン返済よく眠れ
 瀧尻 善英

新開地住宅ローンが並んでる
 佐藤まさあき

ローンで建て大黒柱の顔でいる
 佐藤まさあき

【特選】

かわいらしいバアちゃんになる稽古する
 瀧尻 善英

【特選】

2千万無くても寄り添い寄り添われ
 佐藤まさあき

■宿題 『労働』

佐藤まさあき 選

【平抜き】

よいとまけ家族を背負いエンヤコラ
 高田 幸柳
 非常灯点滅過労気味のよう
 磯島 雅男
 労働者諸君寅さんセリフ思い出し
 中村 英三
 労働の汗に苦労の自負が染み
 木村奈生美

■会費拝受【7月受付分】 ※太字は新会員

野口三代子(愛媛県) / 村上あつこ・笹田隆志・豊澤かな江(以上青森市)・木村奈生美(和田市) / 桜田富士江(蓬田村)

■おかじょうき川柳社会員募集中!

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名:おかじょうき川柳社

→会費:6,000円(1年分)

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

〒039-3502 青森市久栗坂浜田87-2

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

終着駅 Sin

◆パラリンピックが始まった。その直前には24時間テレビもあった。なんとなくで観てきた両者だが、今年度からの担当している仕事に、子どもたちへの教育支援がある。主に幼児・児童の障害の疑いがあると思われる子に、検査などを段取りし、その結果、来年度どのように支援していくかを検討するものである。春先からその数十人の子もたちの検査のために、走り回ってきた。そこには様々なケースがある。それを経験して観る24時間テレビやパラリンピックは少し風景が違った◆24時間テレビでは、そのエピソードに泣いてしまう場面はあった。ただ、(ん?なんで私は泣いているのだろう)とふと思った。同じ境遇ではないから、決して共感の涙ではない。どこかで可哀想と思っているのだろう。自分の子供がそう

ならなくて良かったということもあるだろう。結局、泣くということは、私の心の中にどこかで差別意識、優劣意識があるということなのだ◆漫画「ブラックジャックによろしく」でこういうシーンがある。点字ブロック上に止めてある自転車。それによって、盲人は一歩も前に進めなくなってしまう。その自転車の持ち主は障害者の邪魔をしてやろうという悪意はまるっきりない。ただただ点字ブロックというものを知らない、無知、無関心な行為なのである。無知、無関心、無意識の行為が確実に差別を生みだす。そして、それはいつまでも無くなる差別である。それを誰も責めることはできない。全員が共犯者なのである◆そんなことを考えながら、パラリンピックのメダル獲得にまた涙している自分がいる◆Sin

『アウガ川柳教室』のお知らせ

【場所】青森駅前「アウガ」5階

【日時】毎月2回 第2・4火曜日13時~14時半

【講師】おかじょうき川柳社 代表 むさし

【受講料】1回 500円

□9/14(火)「はらはら」□9/28(火)「粒」□10/12(火)「凄い」

□10/26(火)「金魚」□11/9(火)「太る」□11/23(火)「隣」

●投句先:〒030-1212 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43-3
むさし宛/TEL.0174-27-2008/E-mail:hmusashi@r66.7-dj.com

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2021.09.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句(11月号分)

【締切】9月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】11/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2021.10.02 おかじょうき川柳社本社 10月句会

【時】10月2日(土)午後1時～【所】アウガ5階小会議室【投句締切】10月1日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『負』/『振る』/『自由詠』選者は当日の参加者より選出【席題】1題3句詠・2人共選【川柳ラボ】互選句「色を使った句」1句【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/>【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com(守田啓子) ■投句、句会参加はおかじょうき川柳社会員のみとし、句会参加の際は新型コロナ感染対策に協力願います。

□ 2021.10.13 「川柳吟行会 ぼ」10月句会

【投句締切】10月13日(第2水曜日)【題・投句数】「月」3句【合評会】10月20日(第3水曜日)アウガ5階で14:30～【投句先】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。選評等は後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方なら会員以外でも参加可。

□ おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句(12月号分)

【締切】10月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】12/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2021.11.06 おかじょうき川柳社本社 11月句会

【時】11月6日(土)午後1時～【所】アウガ5階小会議室【投句締切】11月5日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『辺』/『減る』/『自由詠』選者は当日の参加者より選出【席題】1題3句詠・2人共選【川柳ラボ】互選句「固有名詞を使った句」1句【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/>【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com(守田啓子)

